

令和5年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子



四季の森

11月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>



今学校で！『運動会』によせて

学校長 森脇 信行



裏門前のシラカシ

ようやく暑さも落ち着き、時より肌寒さを感じる季節となりました。低学年の子どもたちは、通学途中に拾ったどんぐりを得意そうに見せてくれます。

また、先日の運動会では、お忙しい中ご参観いただき、地域・保護者の皆様に感謝申し上げます。プログラム最後の演技『四季の子スマイルダンスパーティー2023』での子どもたちのやり切った感溢れる笑顔と退場口で高

学年の児童が鉢巻を振りながら下級生を迎え入れる姿が目には焼き付いています。四季の子全員で完成させた演技が終わり、上級生が「よく頑張ったね」と下級生をねぎらっているような姿に見え、感動しました。この後、11月12日に本校体育館で行われる連合自治会の行事「ふれあい広場」では、高学年有志によるソーラン節の披露が予定されます。合わせて応援のほどよろしくお願いいたします。

さて、私は運動会と聞くと、走るのが遅く、当日の徒競走のことを考え、少し憂鬱になったことを思い出します。それでも、アスリートがよく使う「努力は裏切らない」という言葉を信じて、一か月くらい前から、毎日走って、練習をしました。「努力の甲斐があった」そんなうれしい結果が出れば、これが一番良いのですが、現実には、そう甘くはありませんでした。

残念なことに、努力はいつまで続ければ結果が出るのかわかりません。取り組んでいる自分でさえもゴールがいつなのかかわからない場合もあります。そのうえ、せっかく努力してできるようになっても続けるのをやめると、また元に戻ったりもします。「あれだけ一生懸命やったのに全然駄目だった。」などは人生の常で、なかなかうまくいかないものです。それでも、「無駄だから努力することはやめる」とはならないものです。

人は誰でも成長したいという気持ちを持っています。「今のままの自分でよい」という考えだけだと自分のもっている良さを伸ばすことはできません。ところが努力した経験があると、その時は結果が出せなくても、別の思いもしないところで努力をいかすことができます。自分の良さを伸ばすことにつながります。こう考えると、ちょっと大げさですが、努力は人生そのもので、「生活を楽しむために良い刺激を与えてくれるもの」なのかもしれません。

